



TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA

2022シーズン定期演奏会

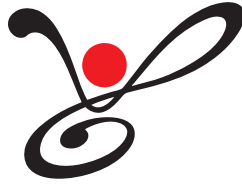
東京フィルハーモニー交響楽団

2022 10



A seat reserved
just for you

chie lot.



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
オーケストラの響きが満ちる場所でのかけがえのないひとときを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・スポンサー

SONY

Rakuten 25
YEARS

マルハン

LOTTE

ゆうちょ銀行
BANK

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

ヴェルディ／歌劇『ファルスタッフ』の物語

舞台は英国ヘンリー四世の御代、ウィンザーのとある街。

主人公の老騎士サー・ジョン・ファルスタッフは

若い時から強欲で女が好きで大酒飲み、

彼の行く場所には騒動が絶えません。

ある日、ファルスタッフは酒を飲みながら考えます。

「二人のご婦人に同じ内容のラブレターを送って、

恋の冒険を楽しんだ末にその財産を頂戴してやろう」…

ファルスタッフのあきれた野心を手伝う羽目になった従者たちと、

偽の恋文を受け取った二人の婦人とその友人たちが巻き起こすひと騒動。

最後には皆大笑いで大団円を迎えます。

皆からこてんぱんに貶されても自信たっぷりのファルスタッフと、

全員で「最後に笑う者が本当に笑う」と高らかに歌い上げるラストシーンは

私たちに豊かな人生とは何かを教えてくれるようです。



第976回サントリー定期シリーズ

10月20日(木)19:00開演 サントリーホール

第150回東京オペラシティ定期シリーズ

10月21日(金)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第977回オーチャード定期演奏会

10月23日(日)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

指揮・演出：チョン・ミョンファン

ファルスタッフ(太った老騎士)：セバスティアン・カターナ(バリトン)

フォード(ウィンザー市民、アリーチェの夫)：須藤慎吾(バリトン)

フェントン(若い紳士、ナンネッタの求婚者)：小堀勇介(テノール)

カイウス(フランス人医師、ナンネッタの求婚者)：清水徹太郎(テノール)

バルドルフォ(ファルスタッフの従者)：大槻孝志(テノール)

ピストーラ(ファルスタッフの従者)：加藤宏隆(バス・バリトン)

アリーチェ(フォードの妻)：砂川涼子(ソプラノ)

ナンネッタ(アリーチェの娘)：三宅理恵(ソプラノ)

クイックリー(フォード家近所の夫人)：中島郁子(メゾ・ソプラノ)

メグ(ウィンザー市民ペイジの妻、アリーチェの友人)：向野由美子(メゾ・ソプラノ)

合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：河原哲也)

コンサートマスター：近藤 薫

演出補：家田淳

舞台監督：幸泉浩司

舞台監督助手：小田原築、山田真代

照明：喜多村貴 劇光社

音響：オルフェオ

小道具・衣裳：アートクリエイション、東京衣裳、新納大介

字幕：増田恵子(原訳：アンナ上山)

字幕操作：Zimakuプラス(高橋結実)

カヴァー：上江隼人

音楽スタッフ：鈴木恵里奈、山中麻鈴

◆ オペラ演奏会形式 ◆

ヴェルディ： 歌劇『ファルススタッフ』（リコルディ版）

全3幕・日本語字幕付原語（イタリア語）上演

原作：ウィリアム・シェイクスピア『ウィンザーの陽気な女房たち』『ヘンリー四世』

台本：アッリーゴ・ボーイト

第1幕 第1部 居酒屋ガーター亭の内部

第2部 庭

第2幕 第1部 ガーター亭の内部

— 休憩（約15分） —

第2幕 第2部 フォード邸の一室

第3幕 第1部 ガーター亭の横の広場

第2部 ウィンザーの公園

上演時間：約2時間30分（休憩含む）

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

共催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団（10/21）

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人 ロームミュージックファンデーション（10/20）

公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団（10/20）

公益財団法人 花王芸術・科学財団（10/20）

後援：日本ヴェルディ協会 協力：Bunkamura（10/23）



※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※開演間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

※終演後、ロビーの混雑を避けるため「時差退場」のお願いをしております。ご協力をお願いいたします。

出演者プロフィール



©上野隆文

指揮・演出

チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung, conductor / director

東京フィルハーモニー交響楽団 名誉音楽監督

韓国ソウル生まれ。マンネス音楽学校、ジュリアード音楽院でピアノと指揮法を学ぶ。1974年チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門第2位。その後ロスアンジェルス・フィルにてジュリーニのアシスタントとなり、後に副指揮者。ザールブリュッケン放響音楽監督および首席指揮者(1984～1989)、パリ・オペラ座バステューユ音楽監督(1989～1994)、ローマ・サンタチェチーリア管首席指揮者(1997～2005)、フランス国立放送フィル音楽監督(2000～2015)。現在は名誉音楽監督、ソウル・フィル音楽監督(2006～2015)、シュターツカペレ・ドレスデンの首席客演指揮者(2012～)など歴任。1997年に本人が創設したアジア・フィルの音楽監督も務める。

2001年東京フィルハーモニー交響楽団のスペシャル・アーティストック・アドヴァイザーに就任、2010年より桂冠名誉指揮者、2016年9月に名誉音楽監督に就任。ピアニストとして室内楽公演に出演するほか、アジアの若い演奏家への支援、ユニセフ親善大使、アジアの平和を願う活動など多岐にわたり活躍している。



ファルスタッフ(バリトン)

セバスティアン・カターナ

Sebastian Catana, Sir John Falstaff (baritone)

セバスティアン・カターナは、ヴェルディとヴェリズモを主要なレパートリーとする同世代で最も興味深いバリトン歌手の1人として頭角を現している。故郷ルーマニアで最初の音楽教育を受けた後に渡米、ミシガン大学とカーネギーメロン大学で化学工学を修め、並行してシアトルとボルティモアでオペラのトレーニング・プログラムを修了。数多くのコンクールに入賞し、カーネギーホール『ユグノー教徒』でデビュー。オーレン指揮メトロポリタン歌劇場『ラ・ボエーム』シヨナールを経てボローニャ歌劇場で欧州デビュー。フランクフルト、シュトゥットガルト、テルアビブ、ヴェローナ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ナポリ・サンカルロ劇場、ガッティ指揮ローマ歌劇場、ミュンヘン放送響、メータ指揮バレンシア歌劇場、リヨン、トリノ、トゥールーズ、コンセルトヘボウ、パリ・オペラ座バステイユ、ヴェネツィアなど各地の歌劇場やオーケストラに登場。『ナブッコ』『リゴレット』『マクベス』『イル・トロヴァトーレ』『アイダ』『ファルスタッフ』フォード、トゥティーノ『La Ciociara』ヨーロッパ初演など多岐にわたる。



フォード(バリトン)

須藤慎吾

Shingo Sudo, Ford (baritone)

国立音楽大学声楽科卒業、同大学大学院修了。第21回ヴァルセヴィア国際音楽コンクール入選。第10回オルヴィエート国際オペラコンクール第2位。第37回イタリア声楽コンコロソにてシエナ大賞受賞。第42回日伊声楽コンコロソ第1位ならびに歌曲賞受賞。国内外において『マクベス』『リゴレット』タイトルロール、『オテッロ』イヤーゴ、『ラ・トラヴィアータ』ジェルモン、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『蝶々夫人』シャープレス、『トスカ』スカルピア、『アイダ』アモナズロ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『セビリヤの理髪師』フィガロ等多数に出演。現在藤原歌劇団を始め新国立劇場や日生劇場等の主催公演に於いてプリモ・バリトンとして活躍している。また、『第九』や宗教曲等でも高い評価を得ている。藤原歌劇団団員。



フェントン(テノール)

小堀勇介

Yusuke Kobori, Fenton (tenor)

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。卒業時に矢田部賞、修了時に声楽部門最優秀賞を受賞。宮内庁主催の桃華楽堂新人演奏会に出演。新国立劇場オペラ研究所第15期修了。2016年文化庁新進芸術家海外研修生としてイタリアのボローニャへ留学。第7回静岡国際オペラコンクール入選並びに三浦環特別賞を受賞。第36回飯塚新人音楽コンクール第1位。留学中は故A.ゼツダ氏のもとで研鑽を積み、ペーザロのアカデミア・ロッシニアーナ2016にて『ランスへの旅』リーベンスコフ伯爵、カナダのルーネンバーグではロッシーニ・オペラ・アカデミー2016にて『ラ・チェネレントラ』ドン・ラミーロ、オーストリアチロル祝祭歌劇場公演『アルジェのイタリア女』リンドーロでヨーロッパ・デビューを果たした。帰国後びわ湖ホール『連隊の娘』トニオで喝采を浴びた。



カイウス(テノール)

清水徹太郎

Tetsutaro Shimizu, Dr. Caius (tenor)

京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。2015年ドレスデンに招聘されザクセン声楽アンサンブルジルヴェスターコンサート「メサイア」のソリストを務める。びわ湖ホールプロデュースオペラ『ラインの黄金』ローゲ、NHK音楽祭フェドセーエフ指揮『エフゲーニ・オネーギン』トリケでの活躍は記憶に残る。群馬交響楽団大友直人指揮エルガー『神の国』で高い評価をえた。他にJ. S. バッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」エヴァンゲリスト、『第九』『天地創造』『カルミナ・ブラーナ』などで活躍している。第33回飯塚音楽コンクール第1位、文部科学大臣賞受賞。第9回東京音楽コンクール第3位、第82回日本音楽コンクールファイナリスト、2012年度音楽クリティッククラブ奨励賞、第38回灘ライオンズクラブ音楽賞、2018年「兵庫県芸術奨励賞」を受賞。



バルドルフォ(テノール)

大槻孝志

Takashi Otsuki, Bardolfo (tenor)

東京藝術大学卒業。同大学院独唱科修了。ドイツ及びイタリアへ留学。二期会オペラ研修所修了。修了時に優秀賞並びに奨励賞受賞。二期会『エフゲニー・オネーギン』レンスキーで一躍脚光を浴び、新国立劇場『こうもり』アルフレード、同『愛の妙薬』ネモリーノ、日生劇場『夕鶴』与ひょう、同『後宮からの逃走』ペドリッロ、二期会『サロメ』ナラボート、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『オテロ』カッシオ、東京・春・音楽祭『ローエングリン』等数多く出演。近年では、2018年 チョン・ミョンフン指揮 東京フィル『フィデリオ』ヤキーノの他、小澤征爾音楽塾『カルメン』レメンダード、日生劇場『ルサルカ』王子役で出演。コンサートでも『第九』をはじめ宗教曲等で高い評価を得、国内外の指揮者やオーケストラから厚い信頼を寄せられている。二期会会員。



ピストーラ(バス・バリトン)

加藤宏隆

Hirotaka Kato, Pistola (bassbaritone)

東京藝術大学卒業後、渡米。ジョンズ・ホプキンス大学ピーボティ音楽院、インディアナ大学ジェイコブズ音楽院にて学び、『愛の妙薬』ドゥルカマラー、『セビリアの理髪師』バジリオ出演の他、アスペン音楽祭に参加。その後フィレンツェでも研鑽を積む。オペラでは、二期会『ファルスタッフ』ピストーラ、『魔弾の射手』カスパール、『パルジファル』グルネマンツ、日生劇場『アイナダマール』トリバルディ、『後宮からの逃走』オスミン、バウハ・コレギウム・ジャパン『リナルド』アルガンテ、横須賀芸術劇場『カーリユー・リヴァー』修道院長等に出演。表現豊かな演唱で絶賛を博す。2021年には「R.ムーティ introduces 若い音楽家によるマクベス」にてバンコーを演じ、好評を博した。コンサートでも、『第九』、モーツァルト「レクイエム」等宗教曲のソリストとして活躍。二期会会員。



©Yoshinobu Fukaya

アリーチェ(ソプラノ)

砂川涼子

Ryoko Sunakawa, Mrs. Alice Ford (soprano)

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第10回(財)江副育英会オペラ奨学生として2001~04年渡伊。五島記念文化財団の奨学生として05年より1年間再渡伊。第34回日伊声楽コンクール優勝。第69回日本音楽コンクール第1位。第12回リカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞受賞。2000年新国立劇場小劇場オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』でデビュー。イタリアで研鑽を積みながら『イル・カンピエッロ』ガスパリーナで藤原歌劇団デビュー、その後も新国立劇場『トゥーランドット』リユー、2022年兵庫県立芸術文化センター佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ2022『ラ・ボエーム』ミミ等での活躍は特筆に値する。容姿・実力を兼ね備えた歌唱は常に評価が高い。藤原歌劇団団員。武蔵野音楽大学非常勤講師。



ナンネッタ(ソプラノ)

三宅理恵

Rie Miyake, Nannetta (soprano)

東京音楽大学卒業。同大学院首席修了後、渡米。バード音楽院特待奨学生修士課程修了。これまでに、日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『フィデリオ』マルツェリーネ、P.ヤルヴィ指揮『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、藤倉大『ソラリス』ハリー等出演。最近では、二期会『ファルスタッフ』ナンネッタ、新国立劇場『夜鳴きうぐいす』タイトルロール、『Super Angels スーパーエンジェル』エリカ、『魔笛』パバゲーナ、『オルフェオとエウリディーチェ』アモーレなどに出演し、いずれも好評を博す。コンサートには、モーツァルト及びフォーレ「レクイエム」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」の他、「マエストロ・オザワ80歳バースデーコンサート」、F.ルイーヅ指揮マーラー『復活』、小澤征爾指揮『第九』等でソロを務める。二期会会員。



クイックリー(メゾ・ソプラノ)

中島郁子

Ikuko Nakajima, Mrs. Quickly (mezzo-soprano)

東京藝術大学卒業。同大学院修了後、文化庁海外派遣研修員としてイタリアにて研鑽を積む。第14回ロッカ・デッレ・マチエ国際声楽コンクール(伊)第2位、第72回日本音楽コンクール・第2位など受賞歴多数。オペラでは、二期会『イル・トロヴァトーレ』アズチェーナ、『蝶々夫人』スズキ、日生劇場『セビリアの理髪師』ロジーナ、びわ湖ホール『ワルキューレ』フリッカ等を演じ、絶賛を博す。近年では、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァで存在感を示す他、二期会及びびわ湖ホール『ファルスタッフ』クイックリー、新国立劇場『カルメン』メルセデス等多くのオペラに出演を重ねている。コンサートでも『第九』をはじめ、モーツァルト及びヴェルディ「レクイエム」、マーラー「交響曲第3番」等でソリストを務め、高い評価を得ている。二期会会員。



メゲ(メゾ・ソプラノ)

向野由美子

Yumiko Kono, Mrs. Meg Page (mezzo-soprano)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学大学院修士課程修了。ベルゴレージ、ロシーニ「スターバト・マリエル」、J.S. バッハ「クリスマス・オラトリオ」「マタイ受難曲」「ロ短調ミサ」、ヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン『第九』、マーラー『復活』メンデルスゾーン「エリア」、モーツァルト、ヴェルディ「レクイエム」、シェーンベルク『グレの歌』山鳩等で活躍。オペラでは『ナブッコ』フェネーナ、『ワルキューレ』フリッカ、新国立劇場小劇場公演『オペラの稽古』伯爵夫人。A.ゼツダ指揮の『ラ・チェネレントラ』ティスベで藤原歌劇団デビュー。その後『蝶々夫人』スズキ、『ラ・チェネレントラ』タイトルロール、また、M.ハンベ演出『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、びわ湖ホール『神々の黄昏』ヴェルグンデなどがあ。藤原歌劇団団員。

10/20

10/21

10/23



©上野隆文

合唱 新国立劇場合唱団 (合唱指揮: 河原哲也)

New National Theatre Chorus (Tetsuya Kawahara, chorusmaster)

新国立劇場は、オペラ、バレエ、ダンス、演劇という現代舞台芸術のためのわが国唯一の国立劇場として、1997年10月に開場した。新国立劇場合唱団も年間を通じて行われる数多くのオペラ公演の核を担う合唱団として活動を開始。個々のメンバーは高水準の歌唱力と演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量は、国内外の共演者およびメディアからも高い評価を得ている。

コラム

『ファルスタッフ』の キーアイテム

〈2通のラブレター〉

ファルスタッフが2人の人妻、アリーチェとメグに同じ内容のラブレターを送ったのが、今回の騒ぎの始まり。

ラブレターのお相手の一人アリーチェの家にやってきたファルスタッフ。そこへアリーチェの夫が帰ってきた! 慌てて洗濯カゴに隠れます。その後の展開はお楽しみ。



イタリアでは「パートナーが浮気をするとうれしくなったようにツノが生える」という言い伝えがあるそう。劇中、「自分の頭にツノが生えてきている」と歌うのはどの人物でしょう?



〈洗濯カゴ〉

楽曲紹介

解説=小畑恒夫

ヴェルディ
歌劇『ファルスタッフ』

■作品の成立背景と特色

ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)はキャリアの最初期に『一日だけの王様』(1840)で失敗して以来、容易に喜劇オペラに手を染めようとしなかった。ヴェルディの資質が喜劇向きではなかったのかもしれないが、社会が急激に変化して喜劇そのものが時代遅れになったこともあるだろう。実際ドニゼッティの『愛の妙薬』(1832)や『ドン・パスクアーレ』(1843)を最後に、喜劇オペラは成功していない。

デビューからおよそ半世紀。73歳のヴェルディは『オテッロ』(1887)によってイタリア・オペラの頂点を極め、そこでキャリアを終えようとした。しかしそんな巨匠に喜劇オペラを書くよう強く勧めたのは『オテッロ』の台本を書いたアッリーゴ・ボーイトだった。作曲家でもあるボーイトは、イタリアーの高度な作曲技法を身に付け、人生経験を十分に積んだヴェルディなら、きっと新時代にふさわしいユニークな喜劇オペラが創造できると確信したのである。

ヴェルディの気質を知り尽くしたボーイトは、シェイクスピアの『ウィンザーの陽気な女房たち』を骨子にした喜劇オペラの筋書きを作った。それを見せられたヴェルディは大いに喜び、再び2人で協力することに同意した。2人が創造した『ファルスタッフ』は伝統的な喜劇とは全く違う。もちろん番号オペラではなく、独立したアリアを取り出すこともできない。こうした様式上の特徴はほとんどボーイトの台本によるので、『ファルスタッフ』のかたちはボーイトが作ったと言える。しかし、そのかたちに生命を吹き込んだのはヴェルディだった。

『ファルスタッフ』の笑いは典型的ではない。人生を深く知った「賢者」によって、人間たちの営みがほほ笑みをもって描かれている。モーツァルトやロッシーニなど過去の音楽をパロディ風に引用して楽しみながら、老いた巨匠は柔らかな精神でこの奇跡のような人間喜劇を書き上げた。オペラの完成は1892年。翌年2月9日にスカラ座で初演され、センセーショナルな成功を収めた。

10/20

10/21

10/23

■筋書きと聞きどころ

〔第1幕〕

第1部 居酒屋ガーター亭の内部

ヘンリー四世統治下のイギリス。老騎士ファルスタッフはハル王子の遊び友だちとしてさんざん悪事を働いた無頼漢で、王子が戴冠して御役御免になった今は2人の従者を連れてウィンザーのガーター亭に住み着き、勝手気ままに暮している。大酒を飲んで酔っぱらう悪癖は抜けず、飲み代がなくなれば踏み倒すことも。

序曲も前奏曲もなく、いきなり幕が開くとファルスタッフは2通の手紙を書きあげたところ。医師カイウスが、酔って暴れたファルスタッフに損害を受けたと怒鳴り込んでくる。ファルスタッフはそれを認め、黙っているのが身のためだと脅す。さらに従者たちが金を盗んだとヒステリックに叫ぶカイウスを、証拠はないと結論づけて追い返す。その後で従者のバルドルフォとピストーラに「盗みは首尾よくやれ」と訓戒を垂れる。ドラマは短い言葉が飛び交う会話で進行。雰囲気や感情を活写するオーケストラに断片的な朗唱が絡み合う。

亭主が食事の勘定書きをもってくる。ファルスタッフは財布がほぼ空なのに気づいて腹を立て、「お前らの飲み代がかかりすぎる」とバルドルフォを叱りつける。

ファルスタッフは従者たちに、ウィンザーの富裕商人の妻、アリーチェとメグを愛人にして金を巻き上げる計画を明かす。自分がどれほど色男であるかを、彼は女の口調を裏声で真似ながら得意げに語る。喜ぶ従者たちに恋文を届けさせようとすると、彼らは「使い走りは名誉にかかわる」と断る。いつも俺にへつらうお前らにどんな名誉があるのだ、とファルスタッフは怒鳴りつけ、長いモノローグ（一人で歌う部分）でユニークな名誉論を展開する。ファルスタッフは最後に箒を手にもち、2人の従者を叩き出してしまう。

第2部 フォード邸のそばの庭園

アリーチェ、ナンネッタ、メグ、クイックリー夫人が朝の挨拶をかわし、すぐにメグとアリーチェが同じ文面の恋文を受け取ったことがわかる。2人は古風な文面にふさわしいロマンティックな歌謡調で手紙を読み合わせる。女たちは思い上がった老騎士ファルスタッフをおびき出して、皆で懲らしめることにする。4人の女たちが16個の8分音符で大笑いする効果が凄まじい。

一方ファルスタッフに叩き出されたバルドルフォとピストーラは富裕商人フォードに近づき、「お宅の奥さんが狙われている」と注進する。フォードはもちろん、一緒にいたカイウスとフェントンも驚く。フォードは変装して無頼の騎士ファルスタッフに会うことにする。女たちも男たちも、それぞれファルスタッフを懲らしめようと相談するが、若いナンネッタとフェントンだけは自分たちの恋に夢中。恋人たちの二重唱は喧騒をしばし忘れさせる清涼剤のようだ。女たちの四重唱と男たちの五重唱は交互に現れるが、途中で2つのグループが交錯する場所があり、そこでは6/8拍子と2/2拍子が同時に進行する斬新な技法（ポリリズム）が見られる。

女たちはクイックリー夫人をファルスタッフへの使者に選び、陽気に解散する。

〔第2幕〕

第1部 ガーター亭の内部

バルドルフォとピストーラは反省したふりをしてファルスタッフのもとへ戻る。そこへクイックリー夫人が「ごめんくださいませ Reverenza」と時代がかったお辞儀をしながら登場。彼を「女殺しの色男」と持ち上げ、「アリーチェは旦那が家を空ける2時から3時にあなたを待っている」と伝える。「2時から3時まで Dalle due alle tre」の印象的な音型はくり返されて耳に残るし、「可哀想な女 Povera donna」は『椿姫』のパロディだろう。クイックリーが去るとファルスタッフは上機嫌で「行け、年老いたジョン」と小唄を歌う。

次にフォードが商人フォンターナと名前を偽って訪ねてくる。フォードはアリーチェに片思いする男になりすまし、贈り物をしてもマドリガルを歌っても効果がないので、あなたが試しに彼女を誘惑してくれないだろうか、と軍資金を渡して頼み込む。ファルスタッフは喜んで金をとり、お安い御用、すでに2時から3時の間に逢い引きの約束ができていたと言い、着替えのために引込む。妻の浮気を知って愕然としたフォードは、これは「夢か、それとも現実か」と独白。やがて胸に怒りがわきあがり、復讐を誓う。喜劇のなかに突然「復讐のアリア」が出現する。ファルスタッフが着飾って戻ると音楽はまた喜劇に戻り、2人は連れ立ってガーター亭を出る。

第2部 フォード邸の一室

クイックリーの報告を聞いて、女たちは大騒ぎで茶番劇の準備を始める。父親から医師カイウスとの結婚を命じられたナンネッタは元気がないが、母親たちからそんなことはさせないと言われて機嫌を直す。

10/20
10/21
10/23
ファルスタッフが現れ、ひとりリユートをつま弾くアリーチェに言い寄る。このやや古風な歌は、色男を気取る勘違い男ファルスタッフにふさわしい。「ノーフォーク公爵の小姓だった頃は私もほっそりしていた」と語るころは、太った体と軽やかな音楽のミスマッチが笑いを誘う。クイックリーとメグが「ご主人が来る」など嘘を言ってファルスタッフを怖がらせるが、本当にフォードが戻ってくるので、女たちもあわてる。

間男を捕まえるのだとフォードが男たちを引き連れて乱入してくる。ファルスタッフは隙をみて洗濯カゴに隠れる。家捜しの大混乱、洗濯カゴのふたを押さえる女たち、フェントンとナンネッタの恋歌など、雑多なものを精妙に同時進行させながら、音楽はまるで絵巻物のような九重唱へ発展する。衝立の後ろに間男の気配が！ 男たちが衝立を倒すと、そこにいたのは若い恋人たち。男たちがよそを探しに行くと、アリーチェは使用人に命令し、ファルスタッフを洗濯カゴごとテムズ川へ捨てさせる。

〔第3幕〕

第1部 ガーター亭の横の広場

テムズ川でずぶ濡れになったファルスタッフは夕陽に身をさらし、温かいワインを飲んでようやく人心地がつく。「ひどい世の中だ」で始まる長い独白は、人生の黄昏を迎えた作曲家自身の心境と重なるかもしれない。断片的な言葉とオーケストラが移ろう気分の変化(憂鬱から陽気まで)を表現する。クイックリー夫人が現れ、あれは手違いだったと釈明する。はじめは疫病神を追い払うようにするファルスタッフだが、アリーチェの手紙を渡され、「夜の狩人」に変装して真夜の公園で会うことを承諾してしまう。彼がまたワナに落ちたことを、物陰から見ていたアリーチェやフォードたちも確認する。夜中にはみんなで仮装して公園の森に出かけ、ファルスタッフを懲らしめるつもりなのだ。一方フォードはカイウスに、今夜娘と結婚させるから修道僧に仮装して来るようにと言うが、それをクイックリーに聞かれてしまう。

第2部 ウィンザーの公園

夜の森にフェントンの恋歌が響く。フォードの計画を挫くため、女たちは彼に修道服を着せる。真夜中の鐘の音を数えながらファルスタッフが登場。アリーチェを見つけて言い寄るが、メグが悪魔の集会だと叫び、2人に逃げられてしまう。

ここからは幻想的なシーン。妖精の女王に扮したナンネッタが「夏の季節風に乗って」と歌う。妖精や小鬼や悪魔たちが集まってきて、怖がってうずくまったファルスタッフを発見。妖精を見た者は死ぬという言い伝えを彼は信じているのだ。仮装した人々は汚れたものとして彼をつつき回す。老騎士は恐怖と痛みに耐えきれず自らの過ちを詫げる。しかしやがて酒臭いバルドルフォを見つけ、これは仮装した人間たちの悪戯であると気づく。嘲笑する人々のなかにフォンターナを見つけたが、それがフォードその人であることを知らされ、彼は自分の完敗を悟る。

勝ち誇ったフォードは、この祭りを妖精の女王の結婚式で終えようと言う。アリーチェがもう一組の男女も、というので二組一緒に祝福の儀式が行なわれる。しかし仮装を解くとカイウスの相手はなんとバルドルフォ! もう一組はナンネッタとフェントンだ。フォードはついに敗北を認め、娘とフェントンの結婚を許す。最後には全員が仲直り。ファルスタッフの音頭で10人のソロと合唱による精緻なフーガ「世の中はすべて冗談」が歌われる。

【原作】ウィリアム・シェイクスピア『ウィンザーの陽気な女房たち』『ヘンリー四世』

【台本】アッリーゴ・ボイト

【作曲年代】1890～1892年 【初演】1893年2月9日、ミラノ・スカラ座

【楽器編成】フルート3（1人はピッコロ持ち替え）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チンバasso、ティンパニ、打楽器（大太鼓、トライアングル、シンバル）、ハーブ、弦楽5部

【バンド】ギター、バス・ホルン(Ab)、鐘

おばた・つねお／昭和音楽大学客員教授、NPO日本ヴェルディ協会理事長。「音楽の友」「レコード芸術」などで音楽評論活動を展開。著書に『ヴェルディ（作曲家・人と作品）』『ヴェルディのプリマドンナたち ヒロインから知るオペラ全26作品』『つながりと流れがよくわかる 西洋音楽の歴史』（共著）、訳書にニコラーオ『ロッシーニ 仮面の男』など。

最後に笑う者が、本当に笑う者なのだ
 ～ヴェルディの総決算にして新しい時代を切り開いた究極の傑作

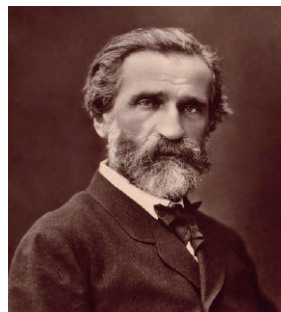
『ファルスタッフ』



文＝加藤浩子

『ファルスタッフ』は究極のオペラである

『ファルスタッフ』(1893年初演)は究極のオペラである。19世紀のイタリア・オペラを牽引し、オペラを「声」の饗宴から「歌われる演劇」へと塗り替えたジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)の最後のオペラで、ほぼ唯一の喜劇オペラというだけでもインパクトは強いが、『ファルスタッフ』の凄さはヴェルディの個人的な創作史にとどまらない。『ファルスタッフ』は、イタリア・オペラの新しい地平を開拓したユニークなオペラなのである。



ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901, by Ferdinand Mulnier)

ヴェルディは悲劇の巨匠だった。『椿姫』も『リゴレット』も『アイダ』も『オテロ』も、彼の傑作はすべて悲劇だ。性格的に悲劇に向いていたこともあったが、駆け出しの頃、『一日だけの王様』というオペラ・ブッフア(伝統的なイタリア語の喜歌劇)の台本を押しつけられ、手ひどい失敗を喫したことも一因だった。晩年、大好きなシェイクスピアの戯曲に基づいた『オテロ』(1887年初演)で、73歳にして悲劇を極める。その先は、もう喜劇を極めるしかなかった。『オテロ』の台本を書いたアッリーゴ・ボーイトに背中を押され、ヴェルディは喜劇にとりかかった。物語の下敷きになったのは、シェイクスピアの喜劇『ウィンザー

の陽気な女房たち』。どこからの依頼でもなく、自分から進んで作曲したことが、ヴェルディをのびのびとさせた。

そしてそれは、とんでもなく斬新なオペラになった。『ファルスタッフ』は音楽が語る演劇なのだ。かつてのヴェルディのオペラを知る人たちは「アリアがない」と戸惑うが、ヴェルディはここで新境地を開いた。切れ目なく続く全曲は、すべてが聴きどころと言っていい。短いモノローグがいくつかあるが、それもあるという間に過ぎ去っていく。アンサンブルの精度の高さも驚異的だ。

イタリア・オペラを超えた魅力

ヴェルディは『ファルスタッフ』でイタリア・オペラを超えた。プッチーニからストラヴィンスキーまで、『ファルスタッフ』に影響を受けた作曲家は数知れない。イタリア・オペラ嫌いと言われるリヒャルト・シュトラウスも、『ファルスタッフ』には感嘆した。

ヴェルディの人生を知ると、『ファルスタッフ』はひときわ味わい深い作品になる。音楽院に入れず、妻子に死なれ、なかなか芽が出なかった青年時代。売

れっ子になり、馬車馬のように働き、二人目のパートナーのスキャンダルに悩まされた中年時代。作曲家として国際的な名声を得、農業経営でも成功し、名士になった壮年時代。芸術家気質のワーグナーとは対照的な「事業家」だったヴェルディは、成功を目指してがむしゃらに働き続けた。それが一段落し、ふっと肩の力が抜けた時に、彼の目の前に広がった微笑の花園。それが『ファルスタッフ』なのだ。



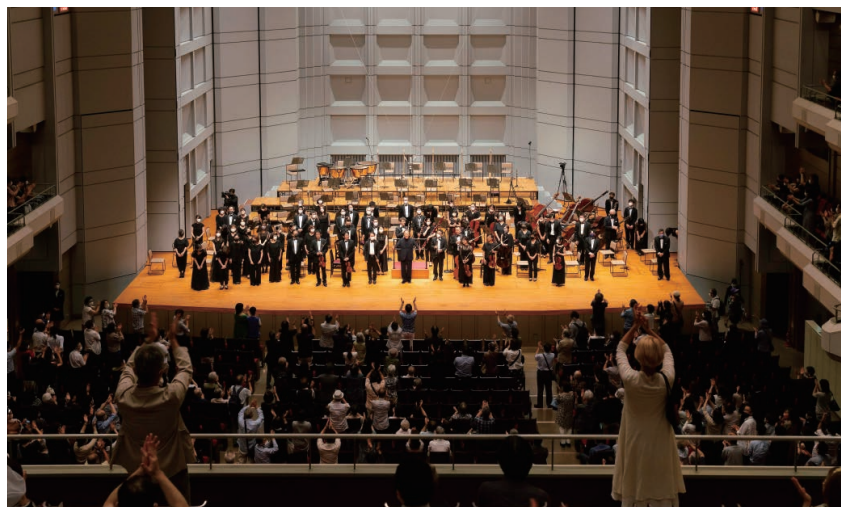
イラスト=ハラダチエ

ヴェルディが自身を投影した、達人の境地

老いぼれファルスタッフに、ヴェルディは自分自身を投影した。「名誉のモノローグ」で自らがこだわっていた「名誉」という価値観を一蹴し、逢引を前に「行け、老いぼれジョン」と自らを励ます。そして最後のフーガでは、「人生はみな冗談」「人間はみな道化」だと、人生と人間を笑い飛ばすのだ。

達人の境地。確かにそうだろう。けれど、ここに至るまでにヴェルディがなんとほかな、なんと遠い道を歩いてきたかに想いを馳せると、筆者は目頭が熱くなる。『ファルスタッフ』はだから、筆者にとっては「泣けるオペラ」でもある（「馬鹿なことを言うな」と、ヴェルディ翁が草葉の陰で苦虫を嘔み潰していそうだが。）

どうぞ皆さま、この類まれな音楽劇に、とっぷりと浸っていただきたい。ヴェルディを知り尽くしたチョン・ミョンフン・マエストロの絶妙のタクトは、これ以上ない水先案内人になってくれるはずだから。



2021年9月定期演奏会〈ブラームス 交響曲の全て〉カーテンコールより ©K.Miura

加藤浩子(かとうひろこ) / 慶応義塾大学大学院修了(音楽学)。オーストリア・インスブルック大学留学。音楽評論家。著書に「人生の午後に生きがい奏でる家」(中経出版)、『さわりで覚えるオペラの名曲20選』(楽書館)、『黄金の翼=ジュゼッペ・ヴェルディ』『パッハへの旅』(東京書籍)、『今夜はオペラ!』『ようこそオペラ!』(春秋社)、『ヴェルディ』『オペラでわかるヨーロッパ史』『音楽で楽しむ名画』『オペラで楽しむヨーロッパ史』(平凡社)ほか。11月に最新刊『16人16曲でわかるオペラの歴史』(平凡社新書)を刊行予定。

The story of Falstaff

During the reign of Henry IV, a fat, elderly knight,
Sir John Falstaff, is drinking at the Garter Inn,
his favorite tavern in Windsor, just outside of London.

He has no money, so he contrives a scheme to get some from two rich,
married ladies named Alice and Meg.

He writes them both the same love letter,
but the ladies discover his plot and devise a plan to punish him.

Alice invites Falstaff to the park outside of Windsor for a love tryst at
midnight, but when he arrives there he encounters first some fairies,
then all the townspeople, who poke, punch,
and hit him without mercy.

Eventually they stop, Falstaff has learned his lesson, and he concludes
that “Tutto nel mondo e burla” - everything in the world is a joke.
All laugh as the curtain falls.

20
Oct21
Oct23
Oct

The 976th Suntory Subscription Concert

Thu. Oct. 20, 2022, 19:00 at Suntory Hall

The 150th Tokyo Opera City Subscription Concert

Fri. Oct. 21, 2022, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 977th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. Oct. 23, 2022, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Myung-Whun Chung, conductor / director

Sebastian Catana, Sir John Falstaff (baritone)

Shingo Sudo, Ford (baritone)

Yusuke Kobori, Fenton (tenor)

Tetsutaro Shimizu, Dr. Caius (tenor)

Takashi Otsuki, Bardolfo (tenor)

Hiroataka Kato, Pistola (bassbaritone)

Ryoko Sunakawa, Mrs. Alice Ford (soprano)

Rie Miyake, Nannetta (soprano)

Ikuko Nakajima, Mrs. Quickly (mezzo-soprano)

Yumiko Kono, Mrs. Meg Page (mezzo-soprano)

New National Theatre Chorus (Tetsuya Kawahara, chorusmaster)

Kaoru Kondo, concertmaster

June Iyeda, associate stage director

Hiroshi Koizumi, stage manager

Kizuku Odahara / Mayo Yamada, assistant stage managers

Takashi Kitamura / Gekikosha, lighting

Olfeo, sound

Art Creation / Tokyo Isho / Daisuke Niiro, properties & costume

Keiko Masuda, surtitles (Anna Ueyama, original translation)

ZIMAKU+(Yumi Takahashi), surtitles operation

Hayato Kamie, cover cast

Erina Suzuki / Marin Yamanaka, musical preparation

20
Oct

21
Oct

23
Oct

Verdi: Opera *Falstaff* (Ricordi version)

Concert-Style Opera in three acts with Japanese surtitles

Libretto by Arrigo Boïto

from William Shakespeare's *The Merry Wives of Windsor* and *Henry IV*

Act I Scene 1 The Garter Inn
Scene 2 The garden of Ford's home

Act II Scene 1 The Garter Inn

— intermission (ca. 15 min) —

Act II Scene 2 A large room in Ford's house

Act III Scene 1 Outside the Garter Inn
Scene 2 Windsor Park

Performance time : ca. two and a half hours (including intermission)

20
Oct

21
Oct

23
Oct

Presented by the Tokyo Philharmonic Orchestra
Co-presented by the Tokyo Opera City Cultural Foundation (21, Oct)
Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |
Japan Arts Council, Rohm Music Foundation (20, Oct),
the Mitsubishi UFJ Trust Foundation for the Arts (20, Oct),
the Kao Foundation for Arts and Sciences (20, Oct)
Supported by the Verdi Society of Japan
In Association with **Bunkamura** (23, Oct)



- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter just before the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- In order to avoid crowding when exiting the hall, we ask that you exit the hall by staggered times in cooperation with guidance that staff will provide at the venue at the end of the concert.

Artists Profile



©Takafumi Ueno

Myung-Whun Chung, conductor / director

Honorary Music Director of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

20
Oct

21
Oct

23
Oct

Born in Seoul, Myung-Whun Chung won the silver medal at the Tchaikovsky International Piano Competition in 1974. After completing conducting studies at the Juilliard School, he served as assistant and subsequently associate conductor to Carlo Maria Giulini at the Los Angeles Philharmonic. Since his appointment as Music Director of the Paris Opera (L'Opéra Bastille) in 1989, Maestro Chung has conducted many prominent orchestras, including the Vienna Philharmonic, the Berlin Philharmonic, and la Filarmonica della Scala. He served as the Music Director of l'Orchestre Philharmonique de Radio France (2000- 2015), the Seoul Philharmonic Orchestra (2006-2015) and the Asia Philharmonic Orchestra, which he founded in 1997. Since 2012, he has been Principal Guest Conductor of the Staatskapelle Dresden.

For the TPO, Maestro Chung was Special Artistic Advisor (2001- 2010), its Honorary Conductor Laureate (2010-2016). Starting September 2016, he was appointed as Honorary Music Director. He is active in education for the younger generations and in promotion of peace especially in Asia through a variety of musical activities and serving as UNICEF Ambassador.



Sebastian Catana, Sir John Falstaff (baritone)

Sebastian Catana has emerged as one of the most interesting baritones of his generation, with Verdi and Verismo as his primary repertoire. After receiving his initial musical education in his native Romania, he moved to the United States, where he studied chemical engineering at the University of Michigan and Carnegie Mellon University, while completing opera training programs in Seattle and Baltimore. He has won numerous competitions and made his debut at Carnegie Hall in *Les Huguenots*. After a singing Schauard in *La Bohème* at the Metropolitan Opera under the baton of Daniel Oren, Sebastian Catana made his European debut at Teatro Comunale di Bologna. He has appeared at various opera houses and orchestras including Frankfurt, Stuttgart, Tel Aviv, Verona, Deutsche Oper Berlin, Teatro San Carlo in Naples, Opera di Roma under Gatti, Munich Radio Symphony Orchestra, Opera Valencia under Mehta, Lyon, Turin, Toulouse, Concertgebouw, Opera Bastille in Paris, and Venice. His diverse repertoire includes *Nabucco*, *Rigoletto*, *Macbeth*, *Il Trovatore*, *Aida*, *Falstaff* as Ford, and the European premiere of Tutino's *La Ciociara*.

20
Oct21
Oct23
Oct

Shingo Sudo, Ford (baritone)

Bachelor and Master of Fine Arts, Kunitachi College of Music. Finalist of the 21th Valsesia Musica International Competition, Second prize of the 10th Orvieto International Competition for Opera Singers, the Siena Award of the 37th Italy Vocal Concorso, First prize and the Songs Award of the 42th Japan Italy Vocal Concorso. He has played the title role in *Macbeth* and *Rigoletto*, Iago in *Otello*, Germont in *La traviata*, Il conte di Luna in *Il trovatore*, Sharpless in *Madama Butterfly*, Scarpia in *Tosca*, Amonasro in *Aida*, Marcello in *La Bohème*, Belcore in *L'elisir d'amore*, and Figaro in *Il Barbiere di Siviglia* in Japan and abroad. He is active as Primo Baritone in The Fujiwara Opera, the New National Theatre Opera, and Nissay Opera. He participates regularly in orchestral compositions such as Beethoven's Symphony No.9. Member of The Fujiwara Opera.



Yusuke Kobori, Fenton (tenor)

Bachelor and Master of Fine Arts, Kunitachi College of Music. Won the Yatabe Award at graduation, and the Classical Voice Grand Prize at finish of his Masters. Partook in the debut concert hosted by Imperial Household Agency at Tokagakudo. Completed the training program of Tokyo Opera Studio at the New National Theatre, Tokyo. Moved to Bologna as a trainee from the Japanese Agency for Cultural Affairs, and studied under the late Mr. Alberto Zedda. Won the Tamaki Miura Special Award at the 7th Mt. Fuji International Opera Competition of Shizuoka. Won the First Prize at the 36th Music Contest in Iizuka. He has played Il Conte di Libenskof in *Il Viaggio A Reims* at the Accademia Rossiniana 2016 (Pesaro), Don Ramiro in *La Cenerentola* at the Rossini Opera Academy 2016 (Lunenburg, Canada). His debut in Europe was as Lindoro in *L'italiana in Algeri*. He played Tonio in *La figlia del reggimento* at Biwako Hall after returning to Japan, and received high praise.

20
Oct21
Oct23
Oct

Tetsutaro Shimizu, Dr. Caius (tenor)

Tenor Tetsutaro Shimizu graduated and holds a Master's degree from Kyoto City University of Arts. The winner of 33rd Iizuka Music Competition, and was awarded Culture, Sports, Science and Technology Minister's Award. Mr. Shimizu has appeared in many religious works with Dresden-Sachsen Vocal Ensemble, such as *Messiah*, *St. Mathew Passion* (Evangelist), Beethoven's Ninth Symphony and *Carmina Burana*. In the field of opera, he played main roles in *Carmen* (Don Jose), *Yuzuru* (Yohyo), *La Traviata* (Alfredo) and *Die Zauberflöte* (Tamino). Mr. Shimizu has also appeared as Loge in Biwako-Hall's production of *Das Rheingold*, as Triquet in NHK Music Festival's *Evgeny Onegin* conducted by Vladimir Fedoseyev, as the priest in Nissei's *Die Zauberflöte*, and as Kilian in Sado Yutaka Produce Opera's *Der Freischütz*. Mr. Shimizu currently teaches at Horikoshi Music High School, Osaka Conservatory, Mukogawa Women's University and Kyoto City University of Arts.



Takashi Otsuki, Bardolfo (tenor)

Takashi Otsuki graduated from Tokyo University of the Arts. He studied in Italy and Germany, and completed the master course of Nikikai Opera Institute with remarks of honor. He appeared as Lensky in *Evgeny Onegin* for Nikikai Opera, Alfredo in *Die Fledermaus* and Nemorino in *L'elisir d'amore* for New National Theatre, Yohyo in *Yuzuru* and Pedrillo in *Die Entführung aus dem Serail*, Narraboth in *Salome* for NISSAY Opera, Cassio in *Otello* for Biwako Hall / Kanagawa Kenmin Hall productions, *Lohengrin* for Spring festival in Tokyo. Recently, Jaquino in *Fidelio* in 2018 (Myung-Whun Chung/Tokyo Philharmonic Orchestra) and Remendado in *Carmen* for Ozawa-musicacademy, Prince in *Rusalka* for NISSAY Opera. At concerts, he has received high acclaim for his religious songs, and has received the trust of conductors and orchestras both in Japan and overseas. A member of Nikikai.

20
Oct21
Oct23
Oct

Hirotaka Kato, Pistola (bassbaritone)

Hirotaka Kato graduated from Tokyo University of the Arts and Indiana University – Jacobs School of Music. He studied in Johns Hopkins University, Peabody Institute. He appeared as Dulcamara in *L'elisir d'more* and *Il Barbiere di Siviglia* and Aspen Music Festival and School. After that, he studied in Florence. He has performed Pistola in *Falstaff* and Kaspar in *Der Freischütz* and Gurnemanz in *Parsifal* for Nikikai Opera. Tripaldi in *Ainadamar* and Osmin in *Die Entführung aus dem Serail* from NISSAY Opera. Argante in *Rinaldo* from Bach Collegium Japan, Abbot in *Curlew River* from Yokosuka Arts Theatre. Acclaimed for his expressive singing. In 2018 Riccardo Muti introduces *Macbeth* by Young Musicians. At concerts, he has appeared as soloist in Mozart's *Requiem* and Beethoven's 9th Symphony. A member of Nikikai.



©Yoshinobu Fukaya

Ryoko Sunakawa, Mrs. Alice Ford (soprano)

Bachelor and Master of Fine Arts, Musashino Academia Musicae. She studied in Italy from 2001 to 2004 under a scholarship by the Ezoe Scholarship Foundation. In 2005, she returned to Italy as a scholarship student of the Gotoh Memorial Foundation. First prize of the 34th Japan Italy Vocal Concorso, the 69th Music Competition of Japan, the Zandonai Award of the 12th Riccardo Zandonai International Competition for Young Opera Singers. In 2000, she made her debut at the New National Theatre opera *Orfeo ed Euridice*. While studying in Italy, she made her debut at The Fujiwara Opera as Gasparina from *Il Campiello*. She performed Liù in *Turandot* at the New National Theatre, and Mimi in *La Bohème* at Hyogo Performing Arts Center produced by artistic director Yutaka Sado. Member of The Fujiwara Opera. Adjunct Instructor of Musashino Academia Musicae.

20
Oct21
Oct23
Oct

Rie Miyake, Nannetta (soprano)

Rie Miyake graduated from Tokyo College of Music. She Study in the New York. She has Completed Master's degree in Special Scholarship at Bard of Music. She has performed Gretel in *Hensel und Gretel*, and Marzelline in *Fidelio* for NISSAY Opera. Zerlina in *Don Giovanni* (Paavo Järvi), and Hari in Dai Fujikura's *Solaris*. Recently Nannetta in *Falstaff* for Nikikai Opera. Title role in *Le Rossignol* and Erika in *Super Angels*, Papagena in *Die Zauberflöte*, Amore in *Orfeo ed Euridice*. In concert, she has appeared as soloist in Mozart's and Faure's *Requiem*, Brahms's *Requiem* and "Celebrating Seiji at 80!" concert, Mahler's *Auferstehung* (Fabio Luisi), Beethoven's 9th Symphony (Seiji Ozawa). A member of Nikikai.



Ikuko Nakajima,
Mrs. Quickly (mezzo-soprano)

Ikuko Nakajima graduated from Tokyo University of the Arts. She studied in Italy as an overseas trainee of the Agency for Cultural Affairs. She has won numerous prizes, including the second prize at the 72nd Music Competition of Japan. She has performed Azucena in *Il Trovatore* and Suzuki in *Madama Butterfly* for Nikiikai Opera, Rosina in *Il Barbiere di Siviglia* for NISSAY Opera, *Die Walküre* for BIWAKO HALL Opera Productions. Recently, she appeared as Santuzza in *Cavalleria rusticana*, Quickly in *Falstaff* for Nikiikai Opera as well as BIWAKO HALL Opera Productions, Mercedes in *Carmen* for New National Theatre. In concerts, She has appeared as a soloist and has been highly acclaimed for Beethoven's 9th Symphony, Mozart's as well as Verdi "Requiem," and Mahler's 3th Symphony. A member of Nikiikai.

20
Oct21
Oct23
Oct

Yumiko Kono,
Mrs. Meg Page (mezzo-soprano)

Bachelor and Master of Fine Arts, Tokyo University of the Arts. Her repertoire includes Pergolesi's *Stabat Mater*, Rossini's *Stabat Mater*, Bach's *Christmas Oratorio*, *St. Matthew Passion & Mass in B minor*, Händel's *Messiah*, Beethoven's *Symphony No.9*, Mahler's *Symphony No.2 Resurrection*, Mendelssohn's *Elias*, Mozart's *Requiem*, Verdi's *Messa da Requiem*, Schönberg's *Gurre-Lieder*. She has played Fenena in *Nabucco*, Fricka in *Die Walküre*, The Countess in *Die Opernprobe*. Since her debut at The Fujiwara Opera as Tisbe in *La Cenerentola* conducted by Alberto Zedda, she has played Suzuki in *Madama Butterfly*, the title role in *La Cenerentola*, Dorabella in *Così fan tutte* directed by Michael Hampe, and Wellgunde in *Götterdämmerung*. She is a member of The Fujiwara Opera.



©Takafumi Ueno

New National Theatre Chorus, Chorus (Tetsuya Kawahara, chorusmaster)

New National Theatre, Tokyo, has opened in October 1997 as the only national theatre for the modern performing arts of Opera, Ballet, Contemporary Dance and Play. Meanwhile, New National Theatre Chorus has started its career and plays a central role in many Opera performances all through the seasons. Their ensemble ability and rich voices achieved acclaim from costarred singers, conductors, directors, stage staffs as well as domestic and foreign media.

20
Oct21
Oct23
Oct



Column



《Two love letters》

The whole ado started when Falstaff sent identical love letters to two married women, Alice and Meg.



《Horns》

In Italy, there is a saying that if one partner cheats on the other, horns will grow on the cheated. Which character in the opera sings, "I have horns growing on my head"?

Alice, one of the recipients of the two love letters, invites Falstaff to visit her at her home. But then her husband comes home! Falstaff hides in the laundry basket in a panic. What happens next is a surprise.



《The laundry basket》

Program Notes

Text by Robert Markow

Verdi: Opera *Falstaff*

The world of opera is filled with great tragedies: Verdi's *Otello*, Bellini's *Norma*, Wagner's *Tristan und Isolde*, Puccini's *Tosca*, Britten's *Peter Grimes*, and Berg's *Wozzeck* just for starters. But what about comedies? How many truly great comedies are there? Very few. At the top of the list is surely Verdi's *Falstaff*. There are no "big issues" here, no profound character development, no doomed love – just an engaging story filled with fun and frolic, youthful high spirits, memorable characters, scintillating music, and rapid-fire dialogue (no repeating the same words over and over!). *Falstaff* is an opera almost impossible not to love.

20
Oct

21
Oct

23
Oct

Verdi's 26 operas were not evenly spaced across his career. Between 1839 (*Oberto*) and 1850 (*Stiffelio*) he turned out an opera a year, sometimes two. Beginning with *Rigoletto* in 1851 the spacing began to get wider. There were six more until 1862, then just four more over the next thirty years. With *Otello* in 1887, Verdi truly thought he had done enough, and looked forward to living out the rest of his life in quiet comfort (in fact, he lived right into the twentieth century, dying at the age of 87 in 1901).

But there was one final masterpiece waiting to be born, and it was Verdi's librettist for *Otello*, Arrigo Boïto (also composer of *Mefistofele*), who was largely responsible for its conception. Boïto knew that Verdi had long wanted to write a comedy. He also knew of Verdi's profound love of Shakespeare. The bait Boïto dangled in front of Verdi consisted of his adaptation of the bard's comedy *The Merry Wives of Windsor* (condensing here, expanding there), laced with monologues from *Henry IV* Parts I and II. The result, first presented on February 9, 1893 at Milan's La Scala, was predictably a roaring success. Notables from all over Europe attended. Tickets went for incredible sums. The applause afterwards lasted an hour. *Falstaff* was given 23 more times in its first season alone at La Scala.

Falstaff was quickly recognized for what it is – a magnificent synthesis of poetry, drama, and music, much in the manner of a Wagnerian music drama but without all the mythological and philosophical baggage. The action is swift. the design is compact, there is not a single wasted moment. Every word is important, and the orchestra is an equal partner with the singers. In fact, the orchestra is probably more important in *Falstaff* than in any other Verdi opera, providing continuous commentary on the action and a vast array of colors to match the mood at any given moment. Often the music flies by so fast that it takes multiple hearings to catch it all, but a few moments stand out. In the first scene, for example, when Falstaff looks in his purse for coins to pay the tavern-keeper, he discovers it is nearly empty, a notion reflected in the orchestra by horns alone, sustaining widely-spaced long tones to create the sensation of “emptiness” (no notes in between). Introducing Scene 2 is a deliciously appropriate bit of orchestral writing that perfectly sets the mood of frivolity for the capricious, chattering ladies we are about to meet. Perhaps the most memorable moment for the orchestra occurs at the conclusion of Falstaff’s opening monologue in Act III. As the wine he is drinking begins to take effect, warming his body and mellowing his spirit, a single flute begins to trill. More flutes, then more woodwinds, strings, and finally the entire orchestra – even trombones! – join in to paint the unmistakable picture of Falstaff having returned to his jolly old self.

There are ten characters in the opera, and all have important parts. There is an almost constant coming-and-going of cast members. Ensemble passages abound; there are even several rare examples of nonets. For this reason it is one of the most difficult operas in the repertory to conduct, to prompt, to direct, or in which to manage the surtitles (or sidetitles). There are no passages suitable for excerpts on operatic or vocal recital programs, either because they are too short, lack tidy endings, or just don’t work out of context (Ford’s and Falstaff’s monologues, for example).

20
Oct21
Oct23
Oct

Falstaff has been called “among the loveliest dreams of yesterday ever imagined by the mind of man ... It has the mobility of mercury and the durability of silver, and sounds as a combination of those two might come from a sorcerer capable of converting a sensation of the hand into a sensation of the ear.” (Irving Kolodin)

Kolodin’s reference to a sorcerer is apt. Verdi magically transformed the whole world of Italian opera. Even his early opera *Nabucco* (Verdi’s third and the one that made him famous) has a raw energy that went far beyond what Italians were used to hearing in their *bel canto* repertory. The orchestra was larger and more powerful, the singers had more forceful and strongly defined roles, and the entire opera was deeply imbued with dignity, monumental strength, tragic pathos and Biblical grandeur. These qualities carried over into many of Verdi’s subsequent operas. The transformation of Italian opera reached even greater heights with the great central trilogy of *Rigoletto*, *Il trovatore*, and *La traviata*. With these, Verdi became the only opera composer who could rival the French Meyerbeer, and by far the most popular Italian composer of the mid-nineteenth century.

Verdi’s public life was not limited to the world of opera. He was deeply involved with a political and social movement known as the Risorgimento, whose purpose was the overthrow of Austrian domination and unification of the various Italian city-states into a single country. Verdi lived to see his dream come true: Italy became a unified country in 1861. He was briefly a member of the country’s first Parliament, and even his name was turned into an acrostic symbolizing his nationalistic sentiment: Vittorio Emmanuele, Re D’Italia (Victor Emmanuel II was King of Sardinia from 1849 to 1861 and became the first king of a united Italy in 1861). When Verdi died, forty years after unification, all Italy went into mourning. For the interment of his body in the crypt of the Casa di Riposo in Milan, a crowd of more than a quarter of a million gathered for the event. Verdi the man was gone, but his legacy lives on, with operaphiles around the world loudly singing the praises of *Falstaff* as one of his greatest achievements.

20
Oct21
Oct23
Oct

SYNOPSIS

ACT I Scene 1

There is no overture. With a “bang” from the full orchestra we’re off and running. The scene is Sir John Falstaff’s favorite watering hole, the Garter Inn in fifteenth-century Windsor (a small city near London). Old Dr. Caius is complaining mightily to Falstaff that one or the other of Falstaff’s sidekicks, Bardolfo and Pistola, picked his pocket last night. Before the matter is resolved the bill for today’s food and drink arrives. Falstaff has virtually no money, but he has contrived a plan to get some. He has prepared identical letters to send to Alice Ford and Meg Page (the merry wives), both married to wealthy gentlemen and both of whom control the purse-strings in their households. Falstaff expects Bardolfo and Pistola to deliver the mail for him, but they sanctimoniously refuse to be part of such an intrigue, citing “honor” as their justification. This prompts Falstaff to launch into his famous monologue about honor and how completely useless it is. He gets a page to deliver the letters and chases his two useless sidekicks out the door.

Scene 2 introduces us to the ladies of the story in the garden of Ford’s luxurious home. Alice and Meg have received their letters and discover them to be identical, which greatly amuses them. Also on the scene are Dame Quickly (a gossipy neighbor) and Nanetta (pretty, young daughter of Ford, who wants her to marry Dr. Caius). To delightfully lighthearted music, their voices unite in a quartet as they plot how to deal with this fat old fool. They leave, and five men enter: Dr. Caius, Bardolfo, Pistola, Ford (Alice’s husband) and Fenton (a young man in love with Nanetta). In a quintet they too spin a web of conspiracy against Falstaff. Suddenly, as if flipping a switch, we become party to an intimate scene between Fenton and Nanetta – an oasis of calm amidst the mad turmoil around them. Here is miraculous music of sweet young love, written by a man of nearly eighty. Then, just as suddenly, we are thrust back into the world of gleeful plotting. At one point every character in the opera save Falstaff – nine of them! – is babbling away simultaneously, the five men to one rhythm, the four women to another. The men leave, and the act ends with the women summarizing

20
Oct21
Oct23
Oct

the plans they have devised for Falstaff, who has no idea how badly his flirtatious intentions are going to backfire.

ACT II Scene 1

We're back at the Garter Inn, where Dame Quickly has come with news for Falstaff. Her presence, here and for the rest of the opera, is punctuated by a memorable gesture in word and tone: "Reverenza," delivered with unctuous, mock-serious courtesy. The news is that Alice Ford has responded favorably to Falstaff's letter; furthermore, her husband is always out between two and three in the afternoon ("dalle due alle tre"). Falstaff is delighted and flattered. The news gets better: Meg too can't wait to meet him. Falstaff sings a monolog of self-congratulation ("Va, vecchio John!") and sends Quickly away with a reward. Bardolfo enters with news of another visitor, one Fontana, who is really Ford in disguise. Ford has come bearing gifts of wine and cash for Falstaff, if only the fine gentleman would do him the favor of seducing a lady who has hitherto refused him. If Falstaff can break down her resistance, Fontana suggests, then he (Fontana) can move in later. The lady is really Ford's own wife Alice, of course, but this is all part of the elaborate plot to trap Falstaff. Falstaff assures Fontana (Ford) that this will be no problem, as he already has an assignation this very afternoon between two and three with the lady in question. Ford is outraged to hear this, though he conceals this reaction from Falstaff. While Falstaff leaves to change his clothes, Ford delivers his famous soliloquy ("E sogno? O realta?") in which he rages over what he presumes is his own wife's faithlessness and vows revenge.

Scene 2 takes place in a spacious room in Ford's house. The four ladies are back, chattering away over the success of their plan so far and preparing for the next chapter in their little comedy, which is to get Falstaff into a large laundry basket and dump him into the river below. All except Alice disappear as Falstaff arrives, right on schedule, mouthing all manner of fulsome praise and flattery for his intended beloved. Suddenly Quickly interrupts Falstaff's ridiculous attempt at love-making to announce that

20
Oct21
Oct23
Oct

Meg is coming. Falstaff hides behind a screen as Meg bursts in with the news that Alice's husband is heading home in a fury with murder in his heart, believing that his wife is entertaining a lover in his own home. (In fact, from the previous scene Ford really *does* think his wife is guilty; this was not part of the plan to trap Falstaff.) Orchestra and singers respond frantically. The breathless pace goes up another notch when Ford and his buddies burst in and begin searching everywhere (including the laundry basket but not behind the screen) for Alice's guest. When they are all off in another room, the ladies stuff Falstaff into the laundry basket while Fenton and Nanetta slip behind the screen for another intimate interlude. Ford and Company return, notice movement behind the screen, and believe they've cornered Falstaff. Wrong! More mad scurrying around looking for the scoundrel, words and notes flying by like the wind. This is the moment for the servants to hoist the laundry basket over to the window and empty its contents.

20
Oct21
Oct23
Oct

Act III Scene 1

Sitting alone outside the Garter Inn, Falstaff, bruised in both body and spirit, laments his sad fate in another of his famous monologues. He calls for wine. Gradually its warming effect spreads through his body, an effect graphically mirrored in the orchestra. But Falstaff's misadventures are far from over. Quickly arrives to assure him that being dumped into the river was a misunderstanding on the servants' part, and that Alice really still loves him. She wants to meet him tonight in Windsor Park under Herne's Oak (legendary site where a huntsman long ago met his fate and still roams as a ghost). Falstaff is to arrive disguised as the Black Hunter (Herne). As he and Quickly enter the inn, all the remaining characters assemble to discuss their roles in the upcoming masquerade. In an aside, Ford and Dr. Caius conspire how to trick Nanetta into marrying the doctor.

The opera's **final scene** takes place at midnight in the park. Distant horn calls add a touch of magic to the sylvan setting. Fenton sings a love song, then joins the rest of the group for last-minute preparations for the

intrigue against Falstaff. Sir John enters, a bit fearful of the spot, but eagerly looking forward to seeing Alice again. She appears on cue, and the fun begins – well, fun for everyone but Falstaff! At first the shenanigans are low-keyed: fairies, sylphs, and elves emerge from the woods while Nanetta (in disguise, as are all except Ford) sings a lovely fairy song. The action suddenly picks up as everyone takes turns at poking, pinching, kicking, biting, hitting, and hurling insults at Falstaff until he can take no more. Eventually recognizing the true identity of his tormenters, he accepts defeat and asks for forgiveness. Off to the side, Ford blesses the union of Nanetta and the masked Fenton, Ford mistakenly thinking the latter is Dr. Caius. In a mood of joy and reconciliation, all voices join in a brilliant fugal episode. The opera’s grand finale is described by Edward Downes as “a reckless, joyous sort of roller-coaster ride past technical perils, leaving the listener dizzy with exhilaration.” It was Verdi’s spectacular farewell to a spectacular operatic career.

20
Oct21
Oct23
Oct

GIUSEPPE VERDI: Born in Le Roncole, Italy, October 10, 1813; died in Milan, Italy, January 27, 1901

Original work: William Shakespeare *The Merry Wives of Windsor, Henry IV*

Libretto: Arrigo Boïto **Work composed:** 1890-1892

World premiere: February 9, 1893 at the Teatro alla Scala in Milan

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, cimbasso, timpani, percussion (bass drum, triangle, cymbals), harp, strings

[banda] guitar, bass horn in A \flat , bell in F

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with a thermography camera and so on.



In order to avoid crowding when entering and exiting the hall, we ask that you enter and exit the hall by staggered times. Thank you for your cooperation.

If the attendee who comes to the venue is different from the purchaser of the ticket, we request to fill out the attendee's contact information in the ticket stub. The contact information will be kept under lock and incinerated one month after the performance.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium.

Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Please cooperate with staggered entry and exit.

News & Information

オーケストラ・キャラバン ～オーケストラと心に響くひとときを～
 氷見市制施行70周年記念事業 氷見市芸術文化館 オープニングシリーズ
 スペシャル・ニューイヤーコンサート
 東京フィルハーモニー交響楽団 特別公演



日時 2023年1月9日(月・祝)14:30開演(14:00開場)
 会場 氷見市芸術文化館
 出演 指揮：梅田俊明、ピアノ：清水和音*、ヴァイオリン：松田理奈**
 曲目 J.シュトラウスII／ワルツ『春の声』
 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*
 メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲**
 ラヴェル／ボレロ

料金(全席指定・消費税込) S席4,000円 A席2,500円 学生券1,000円(高校生以下)
 ※車椅子席は氷見市文化振興財団までお問い合わせください。

チケット購入 チケットfor LINE



チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード：227-131)

東京フィルチケットサービス 03-5353-9522(10:00-18:00 土日祝休) 他

問合せ 一般財団法人 氷見市文化振興財団 0766-30-3430

【メンバー出演情報】三浦章宏ヴァイオリン・リサイタル Vol. 2

昨年に還暦を迎えた三浦章宏が、自身のライフワークとして始めたリサイタルシリーズの第2弾。今回も、娘・舞夏のピアノで、ヴァイオリンの名曲をそろえたプログラムをお届けする。

日時 11月18日(金)19:00開演(18:30開場)

会場 ムジカーザ(東京都渋谷区)

出演 ヴァイオリン：三浦章宏、ピアノ：三浦舞夏

曲目 ベートーヴェン／ヴァイオリン・ソナタ第5番『春』へ長調 Op.24

J.S. バッハ／無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ短調 BWV.1003

フランク／ヴァイオリン・ソナタ イ長調 F.W.V.8

料金 5,000円(全席自由)／有料オンライン配信 2,000円(Confetti Streaming Theater)

チケット問合せ Confetti 0120-240-540(平日10:00～18:00)

主催 「三浦章宏ヴァイオリン・リサイタル」実行委員会 info@vnrecital-pd.com



©Yoshinori Kurosawa



指揮：
チョン・ミョンフン
名誉音楽監督

指揮：
ミハイル・プレトニョフ

特別客演指揮者
ピアノ：イム・ユンチャン*
2022年ヴァン・クライバーン
国際ピアノコンクール優勝

指揮：
アンドレア・バットイストーニ
首席指揮者

指揮：
ミハイル・プレトニョフ
特別客演指揮者

シーズンオープニング

シューベルト
交響曲第7番
『未完成』 ロ短調
ブルクナー
交響曲第7番
ホ長調（ノヴァーク版）

ベートーヴェン
ピアノ協奏曲第5番
『皇帝』 変ホ長調*
チャイコフスキー
マンフレッド
交響曲

ベルリオーズ
序曲『ローマの謝肉祭』
カゼッラ
狂詩曲『イタリア』
（カゼッラ生誕140年）
サン＝サーンス
交響曲第3番
『オルガン付き』 ハ短調

ラフマニノフ
幻想曲『岩』
交響詩『死の島』
交響的舞曲
（ラフマニノフ生誕150年）

オーチャード定期演奏会 開演15:00／開場14:15 Bunkamura オーチャードホール

第979回 1.29(日)	第981回 2.26(日)	第983回 3.12(日)	第985回 5.14(日)
---------------	---------------	---------------	---------------

東京オペラシティ定期シリーズ 開演19:00／開場18:15 東京オペラシティコンサートホール

第151回 1.26(木)	第152回 2.22(水)	第153回 3.9(木)	第154回 5.12(金)
---------------	---------------	--------------	---------------

サントリー定期シリーズ 開演19:00／開場18:15 サントリーホール

第978回 1.27(金)	第980回 2.24(金)	第982回 3.10(金)	第984回 5.10(水)
---------------	---------------	---------------	---------------

**2023
シーズン**

東京フィルハーモニー交響楽団





指揮：
尾高忠明

桂冠指揮者
ピアノ：亀井聖矢*
2022年マリア・カナルス
国際音楽コンクール入賞

指揮：
チョン・ミョンフン

名誉音楽監督
※出演者調整中

指揮：
クロエ・デュフレヌ

2021年プザンソン国際指揮者コンクールの聴衆賞、オーケストラ賞
ヴァイオリン：中野りな*
2022年仙台国際音楽コンクール優勝

指揮：
アンドレア・バッティストーニ

首席指揮者
チェロ：佐藤晴真*
2019年ミュンヘン国際音楽コンクール優勝

尾高忠明
オーケストラの『イマージュ』
ための『イマージュ』
ラフマニノフ
ピアノ協奏曲第2番
ハ短調*
交響曲第1番
ニ短調
(ラフマニノフ生誕150年)

オペラ演奏会形式
ヴェルディ
歌劇『オテロ』

リリ・ブルーランジェ
春の朝に
(リリ・ブルーランジェ生誕130年)
サン＝サーンス
ヴァイオリン協奏曲第3番
ロ短調*
ベルリオーズ
幻想交響曲

チャイコフスキー
幻想曲『テンペスト』
ロココの主題による変奏曲*
幻想序曲『ハムレット』
幻想序曲
『ロメオとジュリエット』
(チャイコフスキー没後130年)

第986回	6.25(日)	第988回	7.23(日)	第991回	10.22(日)	第993回	11.12(日)
第155回	6.23(金)	第156回	7.27(木)	第157回	10.18(水)	第158回	11.16(木)
第987回	6.27(火)	第989回	7.31(月)	第990回	10.19(木)	第992回	11.10(金)

定期演奏会のご案内

【定期会員・特典】

- 特典1 専用指定席 シーズンを通して同じお席を確保いたします。
- 特典2 特別価格 1回券を同じ回数分購入するよりもお得です。
- 特典3 最優先販売 主催公演のチケットを最優先でご案内します。
- 特典4 会場のお振替 同月の他会場定期演奏会へお振替いたします(一部対象外あり)。
- 特典5 各種イベントご案内 会員様限定イベント、オンライン企画をご案内いたします。
- 特典6 翌年シーズンへの最優先継続権 お席を最優先で確保いたします。
- 特典7 チケット割引 主催公演チケットが定価の10%割引になります(一部対象外あり)。

- ▶ 新規定期会員券発売日
 - ・最優先発売(賛助会員) 11/18(金) 10:00 *お電話のみ
 - ・優先発売(東京フィルフレンズ) 11/19(土) 10:00 *お電話のみ
 - ・WEB優先発売 11/19(土)10:00~12/12(月)23:59 [定価の10%オフ]
 - ・一般発売 12/13(火) 10:00

▶ お申込み・お問い合わせ 東京フィルチケットサービス

TEL **03-5353-9522**

WEB <https://www.tpo.or.jp/>

営業時間：平日10時~18時 定休日：土日祝日・年末年始
※チケット発売初日の土日祝のみ10時~16時営業



東京フィル 🔍 検索

東京フィルフレンズ | 入会金・年会費無料で、主催公演チケットを優先発売日より定価の10%割引でお求めいただけます(一部除く)。入会のお申込みは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお電話ください。

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
協力：Bunkamura(オーチャード定期演奏会)

ご注意 | 未就学児のご入場はお断りしております。やむを得ない事情により、出演者・演奏曲目・曲順などが変更となる場合がございます。公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしません。

料金など詳細は定期演奏会2023特集ページをご覧ください



👑 ラインナップ決定! 👑

東京フィルハーモニー交響楽団 2023年シーズン定期演奏会

おなじみの「3トップ」に

ヴェテランと新人「対照の妙」

文＝池田卓夫

東京フィルハーモニー交響楽団の2023年シーズン定期演奏会(全8回)は名誉音楽監督チョン・ミョンフン(1月・7月)、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ(3月・11月)、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ(2月・5月)のトロイカ(3頭)チームが2回ずつ担当、残り2回は桂冠指揮者の尾高忠明(6月)、1991年生まれのフランスの新鋭クロエ・デュフレヌ(10月)が新旧のアクセントを打つ。



1月のシーズンオープニングは**名誉音楽監督のマエストロ チョン**。シューベルトの『**未完成**』(第7番)、**ブルックナーの「第7番**」と、ともにウィーンで生涯を終えたロマン派初期と後期の作曲家2人を代表する交響曲を並べた。

東京フィルとはベートーヴェン、ブラームスの交響曲全曲を演奏、マーラーも頻繁にとり上げるなど、マエストロ チョンのドイツ＝オーストリア音楽への傾倒には、並々ならないものがある。ドイツ語圏のオーケストラとの共演歴も長い。どこまでも正攻法のアプローチから円熟の味わいが立ち上り、「もっともっと深いところから、音をほりおこして!」と鼓舞し続けてきた東京フィルから、魂を揺さぶる響きを引き出すに違いない。

2月は特別客演指揮者**プレトニョフ**。久しぶりにドイツ音楽の王道、**ベートーヴェン**と向き合う。「**ピアノ協奏曲第5番『皇帝]**」はかつて自身のソロでも録音した作品。指揮者とピアニスト、2つの視点から立体的に音楽を構築するはずだ。ピアニストは2022年、米テキサス州の第16回ヴァン・クライバーン国際コンクールに優勝した18歳(当時)の韓国人、





イム・ユンチャン。プロフェッショナルの風格をすでに十分、身につけている。後半には得意のロシア音楽、**チャイコフスキーの「マンフレッド交響曲」**を選んだ。演奏機会は稀ながら、ドラマの起伏に満ちたスペクタクルな作品。プレトニョフ十八番の1つである。

3月は首席指揮者バットゥストーニ。ベルリオズの「序曲『ローマの謝肉祭』(1844)、サン＝サーンスの「交響曲第3番『オルガン付』(1886)と約40年を隔てた19世紀フランス音楽2曲の間に20世紀の**アルフレード・カゼッラ**(1883-1947)の「狂詩曲『イタリア』」



(1909)を置く。2023年が生誕140年に当たるカゼッラはイタリアでは珍しく、オペラよりも交響曲、管弦楽曲、ピアノ曲などに力を注いだ作曲家。2021年に日本初演した自作の「フルート協奏曲『快樂の園』」が象徴したように、バットゥストーニは音楽の色彩感、絵画性に強い関心を持ち、3曲を鮮やかに描き分けるだろう。

5月はプレトニョフ。ロシアのピアニスト&指揮者としての大先輩、**セルゲイ・ラフマニノフ**(1873-1943)の生誕150周年&没後80周年の二重アニヴァーサリーに因み、管弦楽曲ばかり3曲の特集を組んだ。興味深いのはそれぞれの作品番号と初演年。「**幻想曲『岩』**」



作品7は1895年、アルノルト・ベックリンの同名絵画に想を得た「**交響詩『死の島』**」作品29は1909年、アメリカ亡命後の「**交響的舞曲**」作品45は1941年。19世紀末から20世紀半ばまでの長期にわたるラフマニノフの作風の変化をピアノ音楽抜きで検証する画期的、ある意味学究的でもあるプログラミングといえる。

6月は桂冠指揮者尾高忠明。ラフマニノフのアニヴァーサリー“バトン”をプレトニョフから受け継ぐ。若く希望に燃えていた作曲家&指揮者の**ラフマニノフ**青年が苦悶した「**交響曲第1番**」と、そこから当時最新の心理療法の助けも借りて立ち直り、大成功を収めた「**ピアノ協奏曲第2番**」。蹉跎と再起を一对にした選曲もか



なり、ひねりが効いている。ピアノ独奏は2001年生まれの新鋭、亀井聖矢。冒頭には2021年に亡くなった尾高の実兄、尾高惇忠の代表作「オーケストラのための『イメージ』」を置いた。1981年に忠明と東京フィルが初演、兄弟の父の尚忠にちなむ「尾高賞」を授かった名作だ。



7月はマエストロ チョン。折に触れ取り組んできたオペラの演奏会形式上演で、今回はヴェルディ後期の傑作『オテロ』(1887)に挑む。2022年10月定期のヴェルディ最後のオペラ、同じくシェイクスピアに基づく『ファルスタッフ』(1893)を指揮するのは全く初めてだったが、



日本での『オテロ』は2013年4月のフェニーチェ歌劇場(ヴェネツィア)とのツアー以来10年ぶり。舞台上演と演奏会の違いを超え、過去10年間のヴェルディ指揮者としての円熟をつぶさに味わう好機だろう。マエストロ チョンが指揮すると、どのオペラも生き物のように動き出し、最初から最後まで一気に突き進む。

10月は初来日のクロエ・デュフレヌ。歌劇場の児童合唱団で歌っていた時、管弦楽に魅せられて指揮者を志し、ヘルシンキのシベリウス・アカデミーに留学、多くのマエストロを輩出したヨルマ・パヌラー門の教育を受けた。2021年にブザンソン国際指揮者コンクールの



最高位入賞、聴衆賞とオーケストラ賞の受賞で注目され、東京五輪閉会式では次のパリ大会に向け、フランス国立管弦楽団を指揮する映像も流れた。サン＝サー



ンスの「ヴァイオリン協奏曲第3番」にベルリオズの「幻想交響曲」と、2人の作曲家を3月のパッティストーンニから引き継ぐが、冒頭に生誕130周年の女性作曲家リリ・ブーランジェの「春の朝に」を置いたのが目を引く。92歳の天寿を全うした姉ナディア

に対し、妹リリは「ローマ大賞」受賞などで将来を嘱望されながら、24歳で夭折した。サン＝サーンスのソロは2022年仙台国際コンクールの優勝者、中野りな。

11月はバッティストーニ。「シェイクスピアとチャイコフスキー」をテーマに『テンペスト』『ハムレット』『ロメオとジュリエット』の幻想曲、幻想序曲を一気に演奏するばかりか、チェロ独奏が活躍する「ロココの主題による変奏曲」では協奏曲の醍醐味も。ソロは2019年



ARDミュンヘン国際音楽コンクールのチェロ部門で日本人初の優勝を遂げて以来、世界に活躍の場を広げる佐藤晴真が担う。シェイクスピアにはマエストロ チョンの『オテロ』（オペラ演奏会形式）、チャイコフスキーにはプレトニョフの『マンフレッド』という



導火線もあり、シーズンの締めくくりにふさわしい。少年時代のバッティストーニは音楽と文学、どちらに進もうかと迷い、チェロを学んでいて突然、指揮の機会が訪れた時に振ったのがチャイコフスキーだった。自伝的プログラムでもある。

池田卓夫(いけだたくお) / 1981年に新聞社入社。フランクフルト支局長時代、「ベルリンの壁」崩壊や旧東西ドイツ統一を報道。帰国後は文化部編集委員を長く務めた。2018年以降「音楽ジャーナリスト@いけだたく本舗」の登録商標でフリーランス。執筆の他にプロデュース、解説MC&通訳、コンクール審査などを手がける。東京都台東区芸術文化支援制度、アクロス福岡シンフォニーホールなど地域文化関係のアドバイザーも歴任。

公式ホームページ <https://www.iketakuhonpo.com/>

魅力的な8公演すべてをお得にお楽しみいただける「定期会員券」はまもなく発売です。2022シーズンの定期会員券を購入されたお客様には、「継続のご案内」を郵送しております。新規にご購入の場合は以下の発売日にそれぞれお買い求めください。良いお席はお早めに!

最優先発売日(賛助会員様)	11月18日(金)10時~ ※お電話のみ
優先発売日(東京フィルフレンズ会員対象)	11月19日(土)10時~ ※お電話のみ
WEB優先販売期間(定価の10%割引)	11月19日(土)10時~12月12日(月)23:59
一般発売日	12月13日(火)10時~

お問合せ

東京フィルチケットサービス **03-5353-9522** (10時~18時 / 発売日を除く土日祝休)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付/座席選択可)

Photo: A・バッティストーニ/チョン・ミョンファン / 尾高忠明©Takafumi Ueno M・プレトニョフ©Takashi Fujimoto(2月) ©K. Miura(5月) C・デュフレヌ©Yves Petit L・ユンチャン©Lisa-Marie Mazzucco 亀井聖矢©T. Tairadate 中野りな ©kisekimichiko 佐藤晴真©Seiichi Saito 東京フィルハーモニー交響楽団©K. Miura

Photo Reports 2022年9月の演奏会より

9月のコンサートは東京フィルおなじみのマエストロがふたり登場。『休日／渋谷の午後のコンサート』にはマエストロ小林研一郎が、そして定期演奏会には今年日本デビュー10周年を迎えた首席指揮者アンドレア・バッティストーニが、それぞれの演目で情熱的な演奏をお届けしました。

写真=上野隆文(9/15・16)、三浦興一(9/19)

第15回渋谷の午後のコンサート(9/2)、 第94回休日の午後のコンサート(9/4) 〈コバケンの名曲アラカルト〉

指揮とお話：小林研一郎 ヴァイオリン：荒井里桜*
コンサートマスター：三浦章宏

グリーンカ／歌劇『ルスランとリユドミラ』序曲
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲*

【ソリスト・アンコール】バッハ／無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第1番より第1楽章“アダージョ”
ドヴォルザーク／スラブ舞曲第10番

スメタナ／連作交響詩『わが祖国』より「シャルカ」「モルダウ」

【オーケストラ・アンコール】アイルランド民謡／ダニー・ボーイ



長年多くの人に愛されるマエストロ コバケンのタクトと楽しいお話で「午後のコンサート」2公演をお届けしました



ソリストは若手・荒井里桜さん。難曲メンデルスゾーン「ヴァイオリン協奏曲」でのソリストをつとめ、また「質問コーナー」ではマエストロとのトーク進行もごなしました

9月定期演奏会(9/15、16、19)／長岡特別演奏会(9/18)

指揮：アンドレア・バッティストーニ

コンサートマスター：近藤薫

リスト(バッティストーニ編)／『巡礼の年』第2年「イタリア」より ダンテを読んで
マーラー／交響曲第5番

日本デビューから10年、若々しさの中にも風格を増しつつあるマエストロ バッティストーニ。自身の管弦楽編曲とマーラー「第5番」で東京フィルとの信頼関係のもと美しい音色を引き出しました(9/16)



サントリー定期シリーズのカーテンコールより(9/16)



公演最終日は、拠点Bunkamuraオーチャードホールにて。4公演で集中力高い演奏を繰り広げました(9/19)



マーラー「第5番」のカーテンコールより。ホルン首席高橋に大きな拍手が(9/19)



同「第5番」冒頭の葬送行進曲から力強い旋律を奏でたトランペット首席川田と同セクション(9/19)

最も思い出深い クラシック音楽

株式会社大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長

澤田 太郎



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第13回は、今年111周年を迎えた東京フィルのルーツとして1911(明治44)年に生まれた「いとう呉服店少年音楽隊」の母体「いとう呉服店」を前身とする株式会社大丸松坂屋百貨店の代表取締役社長澤田太郎様。東京フィルの法人賛助会員として今もご支援を続けてくださっています。今回はご自身とご家族の音楽の思い出を綴っていただきました。



明治44年、松坂屋の前身である「いとう呉服店」は、名古屋の栄町に開業した新店舗の多目的ホールで行うイベントを盛り上げるために、海軍軍楽隊の学長を招き、一般公募による12名で結成されました。最初は管楽器だけのブラスバンドでしたが、2年後にはオーケストラに。大正13年から昭和13年までは、春の選抜高校野球大会の開会式の演奏をつとめるまでになり、昭和23年には現在の名称の東京フィルハーモニー交響楽団と改称しました。わが国を代表する交響楽団のルーツが松坂屋であるということが大変誇りに思っています。

「クラシック音楽に魅せられて」への寄稿のお話をいただき、まず考えたのは、私にとって最も思い出深い曲は何であろうか、ということでした。すると「魅せられて」とは少し違う方向にはなりますが、ショパンのエチュード『革命』が思い浮かびました。

私には3歳上の姉がいます。姉は幼いころからピアノを習い続け、高校3年生になると音大のピアノ科を志望しました。私が中学3

年生の時です。音大入試の課題曲の発表がこの年の秋にあり、その一つが、ショパンのエチュード『革命』でした。私の家族は入試までの半年余りの期間、この『革命』と付き合いはめになりました。最初のころは、同じ箇所を何度も繰り返したり、音が合わなかったり、テンポも一定ではなく、「また



1911(明治44)年発足当時の「いとう呉服店少年音楽隊」(提供=一般財団法人 J.フロント リテイリング史料館)

始まったよ」と両親と首をすくめていました。特に繰り返し練習している旋律の刷り込みは強烈で、テスト中に頭を駆け巡って困ったこともありました。時間の経過とともに腕前も上達し、曲の全体感がわかるようになってきました。猛特訓の賜物でしょうか、姉は志望校に無事合格し澤田家にも春が訪れました。私も両親も心から喜んだのは言うまでもありませんが、『革命』から解放された喜びの方が大きかったのかもしれませんが。姉は明けても暮れても、休みの日はほぼ一日中練習をしており、私にとって『革命』は最も生活に密着したクラシック音楽であり、目標に向かってひたすら努力することの象徴となりました。



澤田太郎(さわだ・たろう)

1960年神戸市生まれ。1983年滋賀大学経済学部卒業後株式会社大丸入社。2011(平成23)年大丸神戸店長、2012(平成24)年大丸心齋橋店長に就任。大丸心齋橋店本館の建て替えを指揮し、新しい百貨店モデルの具現化を進めた。2018(平成30)年J.フロント リテイリング株式会社取締役 兼 執行役常務経営戦略統括部長に就任。2020(令和2)年株式会社大丸松坂屋百貨店代表取締役社長に就任。

今改めて『革命』の旋律を耳にしますと、あの半年間が懐かしく思い出されると同時に、コロナ禍で大きく変わったビジネス環境に立ち向かっていく勇気が、お腹の底から湧いてくるように感じます。

株式会社大丸松坂屋百貨店様は、大丸・松坂屋の屋号で全国に百貨店を15店舗展開されています。江戸時代の創業以来、「お客様や社会への貢献を最優先に考える」(先義後利)という精神は受け継ぎながら、お客様や社会から求められ続ける「新しい百貨店の理想形」を目指し、たゆみない挑戦と進化を続けています。大転換期の今、これから先起こる様々な変化を楽しみながら「百貨店」の枠を超えた未来を創造していきます。<https://www.daimaru-matsuzakaya.com/>

いよいよ秋も深まり夜寒を感じる錦秋の候、
皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。
今月は、2020年2月以来、2年8か月ぶりとなる
オペラ演奏会形式の演目をお届けいたします。
マエストロと演奏者が紡ぎ出す、表情豊かな音楽をお楽しみください。
引き続き、当楽団を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 樫尾 和宏
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司	キャノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	コスモエネルギーホールディングス(株) 代表取締役社長 社長執行役員 桐山 浩

サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 加賀美 猛

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)
代表執行役 会長兼社長 CEO 吉田 憲一郎

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 萩本 友男

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 高橋 和夫

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長 日覺 昭廣

トッパン・フォームズ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 豊田 章男

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 高島 誠

三菱地所(株)
執行役社長 吉田 淳一

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 畝森 達朗

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一社)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 真吾

(株)トレミール
代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

コロナ禍において、皆様からたくさんの方の励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は今も社会に大きな影響を及ぼしています。東京フィルもまた、深刻な打撃を受けています。2020年2月下旬から数か月にわたり、出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。その後も感染状況により公演の中止や延期、チケットの販売停止を余儀なくされております。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。指揮者と楽団員、スタッフはPCR検査や抗原検査を何度も受けて公演に臨んでおり、これらの検査に掛かる費用もまた楽団の財政を圧迫しています。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を続けてまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけますと幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行（郵便振替）	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行・ 東京公務部（096）	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー 交響楽団

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

東京フィル 賛助会 会員募集中

2022年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立111年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしております。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

種別	年会費1口	
オフィシャル/サブライヤー	詳細はお問い合わせください。	
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
	ワンハンドレッドクラブ	100万円
パートナー会員	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラブノディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのぞ} 鹿丈)

電話: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 巡回公演事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、さらに2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

令和4年度からは、「文化芸術による子供育成推進事業」と事業名が変更となり、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度は5月から12月にかけて、小中学校14校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催します。

留学生の演奏会ご招待… 留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンファン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切にさせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時/土日祝休)

9月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

市川祐子、堀田有幸 (ほか匿名希望8名)

(五十音順・敬称略)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンラインワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督

Honorary Music Director

チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung

首席指揮者

Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ

Andrea Battistoni

桂冠指揮者

Conductor Laureate

尾高 忠明

Tadaaki Otaka

大野 和士

Kazushi Ono

ダン・エッティンガー

Dan Ettinger

特別客演指揮者

Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ

Mikhail Pletnev

アシエイト・コンダクター

Associate Conductor

チョン・ミン

Min Chung

永久名誉指揮者

Permanent Honorary Conductor

山田 一雄

Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者

Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄

Norio Ohga

コンサートマスター

Concertmasters

近藤 薫

Kaoru Kondo

三浦 章宏

Akihiro Miura

依田 真宜

Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン

First Violins

小池 彩織☆

Saori Koike

榊原 菜若☆

Namo Sakakibara

坪井 夏美☆

Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆

Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之

Yoshiyuki Asami

浦田 絵里

Eri Urata

景澤 恵子

Keiko Kagesawa

加藤 光

Hikaru Kato

巖築 朋美

Tomomi Ganchiku

坂口 正明

Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久

Saku Suzuki

高田 あきの

Akino Takada

田中 秀子

Hideko Tanaka

栃本 三津子

Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀

Miki Nakazawa

中丸 洋子

Hiroko Nakamaru

廣澤 育美

Ikumi Hiroosawa

弘田 聡子

Satoko Hirota

藤瀬 実沙子

Misako Fujise

松田 朋子

Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン

Second Violins

戸上 真里◎

Mari Togami

藤村 政芳◎

Masayoshi Fujimura

水島 路◎

Michi Mizutori

宮川 正雪◎

Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆

Aiko Kojima

高瀬 真由子☆

Mayuko Takase

石原 千草

Chigusa Ishihara

出原 麻智子

Machiko Idehara

太田 慶

Kei Ota

葛西 理恵

Rie Kasai

佐藤 実江子

Mieko Sato

二宮 祐子

Yuko Ninomiya

本堂 祐香

Yuuka Hondo

山代 裕子

Yuko Yamashiro

吉田 智子

Tomoko Yoshida

吉永 安希子

Akiko Yoshinaga

若井 須和子

Suwako Wakai

渡邊 みな子

Minako Watanabe

ヴィオラ

Violas

須田 祥子◎

Sachiko Suda

須藤 三千代◎

Michiyo Suto

高平 純◎

Jun Takahira

加藤 大輔◎

Daisuke Kato

伊藤 千絵

Chie Ito

岡保 文子

Ayako Okayasu

曾和 万里子

Mariko Sowa

高橋 映子

Eiko Takahashi

手塚 貴子

Takako Tezuka

中嶋 圭輔

Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子

Tazuko Hirumi

古野 敦子

Atsuko Furuno

村上 直子

Naoko Murakami

森田 正治

Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柁一郎 Shuichiro Endo	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子○ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroschi Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	岩倉 宗二郎 Sojiro Iwakura	ステージマネージャー Stage Managers
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri	クラリネット Clarinets	田場 英子 Eiko Taba	平田 慎 Shin Hirata	福岡 宏司 Hiroshi Inaoka
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	チヨ・スンホ◎ Sung-ho Cho	塚田 聡 Satoshi Tsukada	山内 正博 Masahiro Yamauchi	大田 淳志 Atsushi Ota
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	デュエバ Tubas	古谷 寛 Hiroshi Furuya
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山内 研自 Kenji Yamanouchi	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	萩野 晋 Shin Ogino	
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets		
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	ファゴット Bassoons	川田 修一◎ Shuichi Kawata	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	野田 亮◎ Ryo Noda	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	井村 裕美 Hiromi Imura	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	下払 桐子 Kiriko Shimobarai	桔川 由美 Yumi Kikkawa	前田 寛人 Hirohito Maeda	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		森 純一 Junichi Mori		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
				船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フォアシュピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2022, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 111th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		南 直哉
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佑子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉 2022(令和4)年10月20日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel. 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

演奏会場の感染対策について

演奏会の開催にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続きの感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真=三浦興一／上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています



密集を避けるため、時間差による入退場のご協力をお願いする場合がございます

ご来場者様の中から感染者が発生した場合には、保健所等の公的機関と連携の上、ご購入の際に取得した購入者情報を緊急連絡先として使用させていただく場合がございます。チケットご購入者をご来場者が異なり、購入者情報を緊急連絡先として望まない場合は、必ずチケット半券裏面の余白にご来場者様のお名前と緊急連絡先(電話番号など)のご記入をお願いいたします。



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとってください。

頻回の手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っております。

客席内は十分な換気を行っております。

時差入退場にご協力ください。



TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA

SEASON 2022